



事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
 会長：唐澤千明 副会長：池田幸平 幹事：市川修次 公共イメージ向上委員長：杉本徳治



2019-2020 国際ロータリーのテーマ
 ロータリーは世界をつなぐ
 Rotary Connects The World

2019-2020 RI会長
 マーク・ダニエル・マローニー
 <アラバマ州 (米国) >



第1510回例会 令和元年10月1日(火)

■ 点 鐘 12:30

■ ソング 君が代・奉仕の理想・四つのテスト 原一馬ソングリーダー



- ゲスト・ビジター紹介
- ・伊那市農林部 50年の森林推進室 50年の森林推進係
 室長補佐・係長 伊藤満様
 - ・NPO法人 伊那谷森と人を結ぶ協議会
 代表理事 稲邊謙次郎様
 - ・米山奨学生
 金根 様

■ 会長談話 唐澤千明会長



温暖化で予期しない災害が起きるとよく聞かれますが、スポーツ界でも驚くことがありました。最近では、全英女子オープンでの渋野選手の優勝、大相撲秋場所における御嶽海関の2回目の優勝、ラグビーワールドカップで世界ランク2位のアイルランドに、日本が劇的勝利（番狂わせ）をしたことなど、海外での日本選手の活躍や地元選手・力士が活躍勝利することは大変嬉しいことです。その中、松本山雅がJ1に残留できればどれほど嬉しいことか期待します。

当初2015年10月実施予定だった消費税率は、今日から8%から10%に引き上げられました。1989年（30年前）の3%での消費税導入以降、1997年に5%に、2014年の8%に続き、2019年（今年）5年半ぶりに10%としました。

これは高齢化で膨らむ社会保障費の財源を確保し、財政再建を進める狙いがあります。しかし、国民の負担増は消費の減退を招きかねないとして、政府は、前回8%への増税後に起きた消費の落ち込みを最小限に抑えるため大規模の対策をとりました。

対策な主なものとして継続されるものに、幼児教育・保育の無償化、軽減税率、来年度からの高等教育の無償化などで、期限のあるものでプレミアム商品券、キャッシュレス決済によるポイント還元（来年6月末まで）、住宅ローン減税の拡充（来年まで）、自動車購入時の税負担軽減（来年まで）などがあります。

この軽減税率は飲食料品や宅配新聞の税率を8%に据え置くもので、消費者には家計の負担増を抑えられるメリットがある一方、対象商品の線引きや価格表示などの分かりづらさに懸念が残るとしています。飲料品でもアルコール入りは10%で本みりん（アルコール入り）は10%、ビールは10%、でもノンアルコールビールは8%です。水道水の公共料金は10%もペットボトルの水は8%、また醤油は8%

もトイレトペーパーは10%と様々です。

昨日は食堂の価格表の設定に時間を割かれました。平成26年4月の価格以来の変更で、ほとんど価格を変えていなかったため苦労しました。というのも、肉（マトン）は軽減税率対象の8%ですが、この5年半で単価は4~5割上がっていたからですが、極端な値上げはせずに対応をしました。

ヨーロッパ各国（フランス、イギリス、スウェーデン等）では細かく軽減税率を取り入れています、日本では消費者が困惑する可能性は高いとしています。

今日は今月22日に実施される市民の森すみヶ丘平地林での整備事業について、事前勉強として伊那市の取り組みなどの紹介、森林の活性化、植樹の意義等のお話をお聞きしたいと思います。よろしくお願ひします。

■ 慶 祝 10月誕生日祝い ・中川博夫会員
・兼子展世会員
・小川秋實会員



■ ニコニコボックス

- ◆唐澤千明 農林部室長補佐伊藤満様・NPO法人代表理事稲邊謙次郎様、ようこそいらっしゃいました。今日は卓話をよろしくお願ひします。
- ◆市川修次 伊藤満様・稲邊謙次郎様、本日は卓話を宜しくお願ひ致します。金根さん、ご来訪ありがとうございます。
- ◆唐澤稔 早いものでもう10月です。が、暑い日が続きますが頑張っていきましょう。
- ◆田中真人 9月のコンペで会計の身でありながら3位をいただきました。初めての3位なので大目に見て下さい。
- ◆原誠 大変ご無沙汰しておりました。約1年ぶりに例会に出席しました。新しい会員の方も入られていてとても新鮮なカンジです。だいぶいろいろ忘れてしまいましたが教えて下さい。よろしくお願ひ致します。
- ◆多田浩之 昨日のAXA生命保険の席で、多田さんの伊那事業所の残留の約束を松本支社長からお墨付きを頂きました。井上さんの強力な推しで残留できましたこと、大変喜ばしく思い上納金をお支払します。（代筆・太田）

■ 幹事報告 市川修次幹事 幹事報告は別紙をご覧ください。



■ 委員会報告

・9月29日（日）RYLAの報告 鈴木一比古米山カウンセラー



9/29（日）ホテル国際21に於いてRYLAが開催された。（ホストクラブ：長野RC）

RYLAはロータリークラブが実施する五大奉仕部門の「青少年奉仕」の中で「青少年指導者養成」の為のプログラムである。目的は、青少年を尊重し責任ある有能な青少年に教育的・社会的なプログラムを体験してもらい、指導者としての資質を伸ばす事にロータリアンが激励・援助をする事にある。参加者は14～30歳。ローターアクト・インターアクト・米山奨学生・留学生等、約60が参加された。大会テーマは「不可能を可能に変える！～誰だって原石 誰だって宝石になれる～」

基調講演は「やればできる」を「できる」に変えたビリギャルからのメッセージ。小林さやか氏（ビリギャル本人）『高2の夏に小学4年レベル偏差値が30の学力しかなかったが1年半で偏差値を40上げ70。慶応義塾大学に現役で合格。塾の坪田先生との出会いがすべて』

・9月29日（日）RLIパート2の報告 井上修会員



塩尻の市民センターで開催されたロータリー、2600地区のRLI研究会参加させて頂きました。朝9時半から午後16時半まで1時限50分を6講座、みっちり、ロータリーに対して理解を深めるという視点からの講座でした。今回が二回目で11月に三回目があり明年3月の講座で修了です。数年にかけて受講されるロータリアンもおられるとか。

・「ロータリーの友」10月号紹介 小川秋實ロータリー情報委員



RI会長メッセージ(3頁)は、10月24日は世界ポリオデーなので、ポリオ根絶のための今後の行動を計画する日。各クラブはそのためのイベントをやってもらいたい。アイデアが浮かばなければ、ロータリーの特別プログラム(フェイスブックで配信)の鑑賞を勧めている。

マローニーRI会長が来日(7-13頁)、日本の5か所を訪問、会長夫妻が熱烈歓迎を受けた様子が記されている。

10月は米山月間(19-21頁)。米山学友会がモンゴルで開催され、16か国、548人が参加、日本からは120人参加した。

ロータリー学友会の記事(24-27頁)。ロータリー学友会は、インターアクト、ローターアクト、青少年交換、米山奨学金など、ロータリーのプログラム経験者の組織。3地区での活動の様子が記されている。

10月は、地域社会の経済発展月間。シャッター通りに活気を取り戻すプロジェクトに取り組むクラブの紹介(18-19頁)。閉店した店舗にうどん食堂を開設、高齢者や子供の交流の場を造るとともに、音楽イベント、トークイベント、フットケア・セミナーなどを催して、地域経済を活性化しようとしている。

意見を交換する新コーナーとして、「侃々諤々(かんかんがくがく)」(34-37頁)。侃々諤々は、遠慮なく意見を言うこと。似た言葉に喧々諤々(けんけんがくがく)があるが、これは、多くの人がいろいろな意見を出し、收拾がつかないほど騒がしいさまをいう。今回のテーマは、「例会の服装はどうしているか」。スーツにネクタイは、現在では少数派。作業着でもよい例会が多い。

ポリオに罹患して、麻痺が残っているが、地区ガバナーをしている会員の寄稿(38-39頁)。井戸水から感染したらしい。母の苦しみと、ポリオ根絶への想いが述べられている。

クラブの革新的取り組みの紹介(49頁)。カナダで、ブルーカラーが多い地域では、ロータリーの理

念に賛同しても会員になるのに踏み切れない人が多い。このような人に、ロータリーのフレンドとして、年間最大10回の例会とロータリーのプロジェクトに参加してもらおう(フレンズ推進計画)。これが入会のきっかけになる。また、退会した会員がフレンドとして参画後、再びクラブに入会した人もいろいろ。

地方創生に取り組む三重大・副学長がIMで基調講演(縦組4-8頁)。ほとんどが県外に出ていた水産物を、地元で売る市場(鳥羽マルシェ)を開設。さらに地元の農産物も取り扱ったところ、漁業・農業が息を吹き返し、3年で黒字になった。精油会社が出す熱湯をトマトハウスの加温に用いたところ、トマトの生産量が100倍にもなった。経営塾をつくり、100人ほどの人を育てている。日本はインフラが整っているの、ひらめきと発想の転換次第だという。

■ 理事会報告 市川修次幹事

1. 次年度役員・理事候補者の指名委員委嘱について
2. 次年度の地区補助金事業プロジェクトチームについて
3. 新会員の推薦について
4. 伊那西IAC独自研修の内容について
5. 夜間例会の例会費について
6. 伊那Valley映画祭における名義後援のお願いについて
7. プロジェクターの購入について
8. 10月の行事予定並びにメイクアップ扱いについて
9. その他

■ 指名委員委嘱 唐澤千明会長

細則により、元会長、現会長・幹事・会長エレクトが指名委員に委嘱されました。

■ 出席報告 会員数47名 出席免除会員5名 長欠会員2名 本日出席者26名 事前メイク1名
出席率67.5% 前回出席率 修正なし

■ 卓話 「市民の森整備事業(10/22)へ向けての事前学習」

・卓話者紹介 中川博夫ロータリー財団委員長



10月22日の地区補助金事業(ますみヶ丘平地林での植林)をするに当たり、森林の役割や植林の重要性を学んでから事業に当たらねばならないと思い、伊那市農林部50年の森林推進係長・伊藤満様、NPO伊那谷 森と人を結ぶ協議会代表・稲邊謙次郎様よりお話をお聞きします。

・卓話 伊那市農林部 50年の森林推進室 50年の森林推進係 室長補佐・係長 伊藤満様



- ・日頃は伊那市政にご理解とご協力賜り感謝申し上げます。また、22日の市民の森での植樹、チェーンソーやノコギリなどご寄附いただき、併せて感謝申し上げます。
- ・伊那市では平成28年に伊那市50年の森林(もり)ビジョンを策定し取組みを始めています。

- ・伊那市の森林の現状は、市域面積約66,000haの82%約55,000haが森林であり、その内の約33,000haが個人や財産区、市などが管理している民有林です。
- ・昨今の林業従事者の高齢化や外国産材の輸入による国産材の低迷などが森林整備が進まない原因となっています。
- ・森林整備が進まないことによる、さまざまな課題が山積しています。近頃の集中豪雨により山林の崩壊が起きたり、山と里の境がなくなったことにより、山からシカやクマなどの動物が里に現れるようになった。
- ・50年の森林ビジョンを進めていくためには、ここにいる皆さんをはじめ市民の皆さんの関わりが大切となります。薪ストーブで間伐材を使うことや、住宅等を建設する際に地元の材を使うなど身近なことから関わってもらえれば幸いです。
- ・今後、ビジョンを推進していく中で皆さまにご協力をお願いする場面も出てくるかと思っております、その折はお願いいたします。

・卓話 NPO法人 伊那谷森と人を結ぶ協議会 代表理事 稲邊謙次郎様



〔市民の森 平地林の活動について〕

約70haの平地林での様々な樹種の「保全」と「利活用」を行っている。当法人と平地林森林保全委員会が伊那市と協定を結び、受託事業を展開している。

平地林内を林産物、環境教育、イベント等々のエリアに分け、それぞれに応じた森林整備を行っている。その中でも友好協定を結んでいる新宿区の森林環境教育や都市部の高校生の教育の場になっている。近年は市内の小学生の教育の場にも多数活用されている。

市民が何時訪れても快適な空間が保持されるよう気を配り、安心安全な森林が確保されるよう心掛けている。

〔市民の森 平地林の持つ機能について〕

終戦後の様々な世情に翻弄された時代を経た典型的な里山といえる。

個々の所有者によって一団の森林とは言えないような開発がなされ、これではいけないと気付いた地域住民のおかげで、昭和50年代に市の協力もあって手の入らない、また、入れられない区画が徐々に団地化され平地林としての体裁が整ってきたし、野生動物も徐々に増えてきた感がある。

森林の持つ機能を保持しつつ、適正な自然林の循環を促す様、30年から50年を目標にした森林保全計画が作られてきた。

植樹・保育・伐採の循環を計画的に行うことにより、健全な森林が担保されると考えている。なお、もう一つ大切なことは、これらを永続的に行うためには関わる人の育成が欠かせないことは言うまでもなく、現状は次世代が育っているが、30年後を考えた時は次々世代の育成に力を入れなければならないと考えている。

森林づくり・人づくりがモットーです。

■ 点 鐘

13:30

次回例会

- ・10月6日(日)～7日(月) 分水ロータリークラブとの親睦旅行(佐渡島)
- ・10月22日(火・祝) 地区補助金事業・ロータリーデー「市民の森整備事業」(ますみヶ丘平地林)
- ・10月26日(土)～27日(日) RID2600地区大会(松本市)
- ・11月5日(火) 通常例会(例会場)

例会終了後:クラブ協議会(地区大会後)・理事会(10月分)